



命の限りを尽くすような
叫び声—。
あのときの光景は脳裏に
焼き付いて離れません

廿日市地区救護所
森久美さん 96歳(当時26歳)



本当に灰の国になって
しまいましたよ—
あの頃は皆、感情が
まひしていたんです

原地区救護所
三村速美さん 80歳(当時10歳)

夫が声をかけると「広島がやられた。火の海だ」といいます。それから次から次へとトラックに乗せられた黒くぼろぼろの人たちがやってきたんです。被災者は、救護所が設置された廿日市国民学校(現廿日市小学校)の講堂に運ばれました。人出が足りず、私も6日から手伝いへと出かけていきました。ただ、救護所といっても何らかの治療ができたわけではありません。塗り薬を持ってお医者さんの後を付いてまわりましたが、言葉では言い尽くせないその光景は今でも脳裏に焼き付い

ています。男も女も顔が焼けて膨れ、手も皮膚が溶けています。指と指がくっつかないようにガーゼをしてあげるんですが、あちらこちらで「痛いよー」、「いっせ殺してくれ」と命の限りを尽くすような声が聞こえ、胸が張り裂けるようでした。その日の21時ごろに、「助けてください」と若い夫婦がやってきました。奥さんは顔や身体にやけどを負い、目も当てられないような状態でした。私の夫は「こんなときだから助け合わなければいけない。人としてやるべきことをやらなければ—」とその若い夫婦を家に上げました。私は急いで布団を敷いたことを覚えています。その夫婦は、山口から広島に来ていたのですが、逃げることに必死でお金も何も持っていないということでした。そこで電車賃として7円を渡し、次の日帰っていききました。その後連絡もなく、生き延びたのか、亡くなられたのかは分かりません。その後は1カ月ほど近所の人と交代で救護所に行きました。前の日に生きていた人が、次の日には亡くなられていることが多く、してあげられることがもっとあったんじゃないかと今でも思い起こします。

一瞬の閃光とごう音の後、空を覆う不気味な雲。そして、そのあとに続いてきたのは、むごたらしい姿の人の波。原爆投下後、避難者が広島市から国道2号を伝い廿日市にも入り、廿日市国民学校(現廿日市小学校)はたちまち収容者で埋まったという。地御前や平良、宮内、原、大野、宮島まで被災者は運ばれ、住民はゴザや毛布、医療品を提供した。混乱した状況の中、懸命に救助の手を差し伸べた住民たち。その活動の記録に焦点を当てる—。

朝

朝、家でシーツを敷いていると、窓の向こうに見える中国醸造さんの煙突の上に、突然バレーボールのような赤い火の玉が見えました。火の玉は瞬間に膨れてはじけると、爆風が襲ってきました。ガラス戸は吹き飛び、近くで爆撃があったのだと思いました。すぐに家の裏にあった防空壕に逃げ込み、じっと身をひそめていました。何時間が経ったでしょうか。たしか12時ごろです。外へ出てみると、あたりは静まり返っていました。国道2号に目をやると、広島方面から着物がぼろぼろになった男の人が歩いてきました。

その日は空からいろいろなものが飛んできました。書類の紙切れや誰かが着ていた着物の袖。一カ月前くらいからアメリカの飛行機が「日本よ！国神の国、七月八月は灰の国」と書かれたビラを落としました。本当に灰の国になってしまいましたよ。1週間経つと学校は再開されましたが、教室は収容された患者の部屋になり、皆さん皮がむけていて、廊下を歩くとべったりと足跡が付くんです。それを毎日雑巾で拭いていました。地域の人が手伝いに来られていて、教室にいと「また死んだ、また死んだ」と声が聞こえるんです。校庭に穴が掘られ遺体を焼いていましたが、1人焼くのに一日はかかったそうです。また、人を焼くとだんだん体が折れ曲がってきて穴から飛び出してくるようで、それをもとに戻すのに1人がずっと付いていないといけませんでした。あのころは怖いとか恐ろしさといった感情がまひしていたんです。

青

閃光の後のドーンと腹に響く音。見上げると山の向こうに大きなきのこ雲が立ち上っていました。当時の子どもは空襲に遭うと耳と目を押さえるよう教育を受けていました。あのとき、私は小学校の4年生でグラウンドで朝礼を受けていました。音が響き渡ると皆一様に陸軍病院(現老人保健施設原)が爆撃されたと思いきや、と駆け込みました。しかし、しばらくしても何もありません。不思議に思いつつも授業が再開されました。確か11時ごろだったでしょうか。先生が血相を変え私たちに「広島がやられたそう。今日はもう帰らなさい」と言い、下校したんです。

家に帰ると母親が干していた麦を取り込みながら「顔にすす付けて、何いたずらしているの」と怒られたのを覚えています。思い起こせばあれが黒い雨といわれるものだったのでしょう。その日の午後になると広島市内から被災した人たちがトラック

■市内救護所の状況 広島原爆戦災誌より

	所在地	開設日	収容者数	死体埋葬数
廿日市町	廿日市国民学校	8月6日	2,979	351
平良村	平良国民学校	8月6日	不明	178
原村	原国民学校	8月6日	37	8
宮内村	宮内国民学校	8月6日	712	169
地御前村	地御前国民学校	8月6日	1,948	226
串戸村	串戸会館	8月6日	91	42
厳島町	島内7寺	8月8日	350	335
大野町	大野下国民学校など	8月8日	—	250 大野下国民学校

被爆者救護活動の

記憶

わがまちの惨状